

第2回 旭市総合戦略懇談会 会議内容

日時：平成27年6月30日（火）14：00～16：20

場所：旭市役所

○出席者

《委員》 15名出席 2名欠席

飯島 隆太 委員	出	石上 弥耶 委員	出	石毛 みさと 委員	出
石見 千賀子 委員	出	伊知地 正樹委員	出	大越 俊克 委員	出
向後 嗣一 委員	出	小関 友紀子 委員	出	椎名 正剛 委員	出
嶋田 明範 委員	出	城之内 和義 委員	出	田邊 波津枝 委員	出
林 一美 委員	出	林 英光 委員	出	原 伸太郎 委員	欠
土川 峰弘 委員	欠	諸持 耕太郎 委員	出		

《旭市》

旭市副市長、秘書広報課長、総務課副課長、企画政策課長等（事務局） 計9名

○資料

- ・次第
- ・資料1 旭市総合戦略 人口ビジョン（案）
- ・資料2 旭市総合戦略懇談会の意見概要及び既存事業について
- ・資料3 旭市人口ビジョン・旭市総合戦略の概要（案）
- ・資料4-1 旭市小さな拠点形成事業 基礎調査結果の要点
- ・資料4-2 旭市小さな拠点 方向性（案）

○会議内容

1. 開会

林座長より挨拶

2. 市長あいさつ（要旨）

どうもみなさん、ご苦労さまでございます。梅雨空が続いて鬱陶しい空模様でありますけれども、皆様方には公私ともにあたって、大変お忙しいところをご出席いただきますことを、心からお礼申し上げたいと思います。今日は第2回目の旭の総合戦略懇談会ということで、お集まりいただきました。

第1回目では雇用や結婚、子育て、観光、市のPR等、様々な立場で様々な意見を出していただきまして、これからの5年後、10年後の旭のまちづくりに向けて、皆様方には建設的、前向きな意見をいただきましたことを、たのもしいなと感じたところであります。

今日は、小さな拠点形成事業の説明もありますけれども、人口ビジョンの現状分析、それに伴ういろいろな影響、経済的な部分、あるいは環境、そして子育て、いろいろな部分で関連がありまして、総合戦略の中で一番大事なものではなかろうかと。人口ビジョンで現状を知っていただくためにも、旭市総合戦略策定支援事業の受注者（以下、「総合戦略事業受注者」という。）に説明をお願いしているところであります、その中間報告もしていただければと思っているところであります。

2回目ということで、それぞれ皆様方にも、ある程度気心が知れて、1回目でいろいろ発言をいただきまして、2回目でありますので、さらに自分の思っていることについて、これからの旭づくりに前向きにご発言いただければありがたいなと思います。大変忙しい中でありまして、また長時間にわたっての議論でありますので、よろしくお願い申し上げまして、ご挨拶にしたいと思います。ありがとうございました。

3. 議題

議題に入る前に前回欠席の椎名委員自己紹介

（1）旭市人口ビジョン（案）について

資料1に基づき総合戦略事業受注者が説明

【質疑応答】

●座長

データはあるけどなぜそうなのかという分析に関してはどういうふうに考えられますか。データを見てそうなのかと思うけれども、原因がわからないのですが。

●事務局（総合戦略事業受注者）

全部が分析できていないところもありますが、資料の文章構成として、基本的に前半が「現状分析」で、後半が「課題や分析」になっています。

○委員

私は農業をしておりますので、農業の面からお話させていただきます。旭は農業をするには恵まれているところで、このデータにも出ていると思います。とにかく算出額がずば抜けて良いですし、データ

的にはかなりの成績だと思います。ただし、全国的に知られているのかというと、疑問に思うところがあります。

例えば、旭市で県内1位の生産額のものが全国的に有名かという疑問だと思います。なぜかというと、旭市のきゅうり、トマト、いちごとか生産額は高いのですが、旭市としてブランド化されていないです。これだけ盛んでありながら、旭市の品種がない。

旭市は恵まれた地域であり、後継者もいるということで、これから旭が農業で発展していくという全国的に農業で旭を有名にしていこうというところが必要だと思います。それによって、人口の流出も避けられますし、農業も規模拡大してやっているところもあるので、そこに対し就業者も増えていく。

ブランドと言っても、難しいのですが、新しい品種を作るとか環境はあると思います。農業高校もありますし、千葉県で農業高校は1校だけです。農業高校でトマトの品種改良をしていただいて、それを生産者が栽培試験をして、旭のトマトを品種改良していくなど、それができる地域だと思います。そうすると、トマト自体も安くなりますし、ブランドとして売り出していけると思います。ただこれはすごく時間はかかります。せっかく場所がありますので、そういったところを少しずつ進めていったらいいのかなと思います。私ごとですが自分でも花の品種改良をしまして、自分の品種を持っています。それを全国的に売ることでもできましたし、海外でも少し売っています。成田も近いですし、海外にも販売できるのかなと考えています。時間はかかる話ですが、こういった準備もしていければ、将来的に未来は明るいのかなという感じがします。

●座長

とても具体的な意見でした。旭市はとってもゆったりしていますので、実際ブランド化を地域全体でやると力になっていくと思います。

○委員

農業の話がでたので、子ども目線から話します。市のキャラクターで「あさピー」というのがありますね。帽子がトマトで尻尾が鰭になっており、旭市の特産を使ったキャラクターだと思います。そういったキャラクターなどを利用してアピールするのも1つの方法かだと思います。子どもは七夕市民まつりなどで「あさピー」がいるとすごく喜びますし、若い子たちでもわかるようなキャラクターを利用したブランドの野菜でもつくれば、若い世代に伝わるのではないかと思います。

○委員

どうしても旭市は、銚子の通過点のようになって、友人にも「旭市ってどこ？」と言われます。

10月に「道の駅季楽里あさひ」ができるということで、旭市にとって多くの観光客を予想しているということであれば、大いに利用すればいいと思います。

例えば「旭市のトマトは千葉県一」など、全国に発信して、旭市の人だけが来るのではなく、遠くから来てくれるような魅力のある道の駅にしてもらいたいです。そこに、「旭市は県内でトマト、きゅうりが1位です」など、見てわかるように表示して、さらにキャラクターを活用したり、市のホームページ等で発信したりしていったらいいと思います。最初はかなりの人が注目していることだと思いますので、旭市のことを知ってもらうには、いいPRの時期じゃないかなと思います。その他、花も展示し、写真も撮って、どんどん発信すればいいのではないのでしょうか。

●座長

1 番だ、おいしい、ということの他に、地元がどのように努力していることなどまで宣伝していかないといいませんね。

○委員

先週、保育園の園児さんに、うちでジャガイモ掘りをやってもらいました。親御さんもあわせて 100 人くらい来まして、そういう体験を 20 年以上やっています。そういうものは子ども達も楽しいし、ついてきた母親たちも楽しんでやっています。今度できる道の駅も今までにない、体験型、農業体験とか地曳網などをやれば、素敵な道の駅になると思います。

○委員

今、体験のお話がでたので、体験の枠を広げて、東京のキッザニアとかありますが、宣伝効果が大きく、企業の誘致もできるということで、対象をお子さんに広げてみるというのではないのでしょうか。また、例えば高齢者の方がリタイアした後に、本当は農業をやってみたかった方とかいらっしゃると思うので、高齢者を対象とした体験施設もあったらいいと思いました。

●座長

「高齢者を対象とした農業体験をぜひ旭市でやってみて」というようなことも PR できますよね。そういう優しさみたいなものも含めてやるというのではないのでしょうか。

○委員

道の駅の関係で、いろいろなセクションがうまく連携し、PR で人を呼ぶ、できればそこで仕事もできるというような話だったと思います。

先日テレビで、川越のバス会社が、地域の現状分析をして、バス会社として地域に還元しながら、赤字状態を工夫していい方向に持っていったという話をやっていました。その中で、客足の状況をデータ分析して、そこから困っている人の立場になって、運行ルートを変更したり、停留所がない山奥の人達が困っているところは、その停留所まで連絡するマイクロバスで迎えに行ったりするなど、きめ細かいサービスをプラスしたら、利用者が増え経営も上がっていったということでした。

そうことを旭市に活用できないかと考えまして、今回の道の駅でも循環バスのコースに入れるとか、それから市内の旧所・名跡の観光ルートをつくることも考えられます。また、季節の祭りなども踏まえて、いくつかのパターンのルートで、地元の人も活用でき、外部への PR として、観光の方でも活用できるものがあるといいと感じています。

●市長

人口ビジョンの説明があつたなかで、就業者の通勤先を改めて聞かせてもらって、こんなにも市外に勤めているのかなと感じたところです。今までわからなかったのですけれども、茨城は神栖、鹿嶋の工業地帯という部分である程度行くのかと思いますが、銚子、匝瑳、多古に旭からこんなにも通勤のために市外へ流出している。そういった人を旭の雇用の場に引き留めておくということが、これからの人口減少対策に必要なのかなと改めて思ったところでもありますので、この分析で、銚子、匝瑳、多古はどのような業種に流出しているのか、わかりましたら教えていただけないでしょうか。

それから観光ルートのことについては、道の駅を拠点に、例えば岩井の龍福寺の素晴らしい景観、瀧川惣助の七宝焼き、刑部岬、大原幽学とか、旭には隠された宝物、観光の名所がたくさんありますので、そういったことを整理しながら、観光ルートのバスでも走らせられることも検討していかなければならないと感じました。今はホームページなどが盛んですので、都会からもきっと見つけながら来てくれるのではないかなと思いますので、やってみたいと考えています。

そういった良いアイデアがあったら皆さんに知恵を貸していただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

今、市長がおっしゃったように、流出について、就業先についてはすごく重要なことだと思います。当社の社員が他の市町村から移り住んできた、やはり仕事場がそこにあるから近くがいいということで、匝瑳市や銚子市から移り住んで、そこで結婚して、家族が増えていくということがあります。

まちなかを見ていて思うのが、親の世代まではいても、その次の世代の人たちがいないのです。これがどうなるかと言うと、人口ビジョンで小学生の人数がすごく減っていたのですけれども、そのとおり子どもがいないのです。私は旭の中でも子ども会が多い地区に住んでいるのですけれども、私の子ども、25歳の娘が子ども会にいたときには、50人いました。しかし今、子ども神輿を担ごうとして、子ども何人いるのかと言うと10人ちょっとしかいないのです。それには、まず若い世代の人の仕事場がないと市に定着しない、年配の人がいても若い人が住んでいない、そういう問題が感じられます。雇用の拡大が、第一歩にくるのかなと思います。

駅周辺の商店には集客がなく、後継者不足で空き店舗が目立っています。農業をやっている方も野菜で頑張っている方もいれば、お米だけでやっている方とか、安くて大変でこれ以上お米が下がったら離農していくというのが現状で、ブランド米とか、匝瑳市では匝瑳米とか作っていますが、そういうものをやって付加価値をつけていかなければ、何にしても農業が残っていけないということだと思います。

空き店舗については、例えば島根県の市では、地域活性コンテストというのをやって、まちぐるみの支援をして、空き店舗を利用したお店をどうやってやるかということで活性化を図ったというのを聞きました。

他の市では商工会が商売のプロのアドバイザーを雇って、繊維工場の糸かすをとる部品を作っている会社が、繊維工場自体が海外に流れて“じり貧”になってしまい、それをどうしたかと言うと、掃除用具の会社に転身したということです。そういうアイデアとかデザインとか、専門スタッフをおいて、商売を支援した。

そういう自力では難しい部分の支援とか、みんなで知恵を出し合ったりする、コンテストだとかブランドだとかなかにか仕掛けていかないと商業なり農業の活性化というものはもう一歩行かないのではないかなと感じました。自然に任せていては難しいのではないかと非常に感じます。

「砂の彫刻」や「YOU・遊フェスティバル」にも企業として支援をしています。一企業のみで応援するには、商売も難しい中で非常に難しいところです。観光や市のイベントを活性化させるのも、実行委員が四苦八苦して盛り上げて、どうやったら一人でも多くの人に来ていただいて、子どものころからやっている七夕市民まつりが継続していくのか、子どもたちが他の市町村に移り住んでも戻ってきてくれるようなお祭りになるのか、悩みながらやっています。そういったものをみんなで提案して、もっともっと具体的なものを考えたり、支援したりしていけないと人口が増えたり観光が良くなれないと思います。

（２）旭市人口ビジョン・旭市総合戦略の概要（案）について

資料 2、3 に基づき事務局が説明

●座長

皆様の質問の前に、少し私のほうで意見を述べさせていただきます。事務局から大きな４つの方針が出されましたが、本当の旭らしさを出すということは何が必要か考えました。

旭全体を考える、支えるという具体的戦略は「医」「職」「住」であろうと。それを市民の志と地域の総合連携で文化として実現するものです。

「医」というのは、長生きしたい、健康でありたいという食べ物からスポーツまでひとつになってのものです。病院だけを一生懸命やるのではなく、全体でのことです。医療も昔と違って、細分化されて、極度な状況です。昔の医者のような優しさが足りなくなってきましたね。

「職」、健康で生きるためには、お金が必要です。各種産業が連携していく必要があります。連携をすることで、より安定した職場ができて、温かい人間関係ができます。これがないといくら働いてもあまり生きがいになりません。

「住」は生活のインフラストラクチャーですけれども、美しい所に住みたい、良好な住環境、幸せな安らぎ環境というものがが必要です。

「文化」は地域の総合評価です。教育、催し、交流活動、観光、風土、歴史、伝統、産業、職場、産物などで郷土意識と誇りを高め、共有していくこと。それが大きくは未来のビジョンへつながっていくでしょう。

「衣食住」は聞いたことがあると思いますが、旭の場合は、この「医」「職」ではないかと思いました。

もうひとつは、旭らしい環境・景観の美化を図り、住み続け、移入、セカンドハウス、観光等、魅力ある住みたい環境づくりの基本的条件整備です。旭は海あり丘ありで、すばらしいところなのに、セカンドハウス、別荘を持ちたいというふうにあまりなっていないですね。もったいないと思います。

新旧の良きもの、良い職場、レクリエーションの場がはたしてあるでしょうか。行政サービス、交通網、ショッピング、生活の利便性は当たり前のことです。そして、美しい環境・景観で、日本がこれが一番遅れています。

旧市町地域の特色を大切に整備してセンター（市）とサテライト（地域）の特色ある役割を分担・連携で全体を高めていくことが重要です。地域とセンターのメリハリある連携で、人が住みやすくするために効率よくしていくコンパクトシティが必要です。

このようなことをデザイナーとして提案してみました。では皆様、ご意見をお願いします。

○委員

座長の意見にありましたように「職」各種産業の連携による振興というのが、今後の旭市にとって、非常に重要になってくると思います。私は委員の中では一番若いと思いますが、友人と話しておりますと、情報化が進んでおりまして、価値観が多様化していると思います。自分で職場に勤めたい人もいれば、自ら創業したいという友人もいます。ただ自分ではどうしたらいいかわからないという人も多くて、今後、そうした若者の取り組みを市ぐるみで創業を支援できる体制づくりが重要になってくると思います。

雇用を増やすことは重要ですが、たとえば「産業競争力許可法」という法律が昨年施行されまして、「市区町村による創業支援事業計画」というのを作成している市区町村もあります。こういった取り組みを市で行いまして、もうひとつ大きな柱として創業者を増やすようなことも重要だと思います。

このような新しい取り組みのなかから、椎名委員がおっしゃっていたブランド化とか若者の新しい価値観が入って、新しい企業、会社をおこす中で、そういったものができてくる可能性が高いと思います。

●事務局

先ほど市長から人口ビジョンの就業者の通勤先についての分析について、事務局から補足説明があります。

●事務局（総合戦略事業受注者）

通勤の流入流出の数字について、流出先の職種はわかりませんが、旭市への流入に対して4,000人の流出超過の原因について補足します。これは流出超過だからといって、必ずしも悪い数字ではないです。

銚子市を例にとると、銚子市は店がたくさんあって雇用があるのですが、土地が高いので、旭市や神栖市に転居してくる方が多いのですが、職場は銚子市にあるという状況です。

旭市においても、もともと銚子、匝瑳、香取に住んでいた方が、旭市に住宅が分譲されて、病院もあるし、土地も安く住みやすいからと、周辺から移ってくる方が多いです。しかし、職場はもともとの銚子、匝瑳、香取に旭市から通っているのです、通勤先としては流出超過となることが考えられます。

○委員

資料3の総合戦略の概要について、基本目標と基本的方向で4つ項目がありますが、どちらも重要な内容でしょうが、この総合戦略は全国一斉に作っているということですので、どこも同じようなことを出してくると思います。その中で優先順位をつけるというのは難しいとは思いますが、重点の中でも最重点というのをひとつ、旭市はこういう問題があって、これが売りだから、これをまず看板にかかけたいというのがあると、外に対しても国に対しても、アピールになるのではないかと思います。

●座長

平凡ではなくて、えっと思うようなことをやると全体に響いてきますね。最重要をまとめるのもいいかもしれませんね。

○委員

魅力ある雇用を創出するということが気になっていまして、東総地区において旭は、住みやすい環境は整っているのです、雇用はないけど旭に住んでくれている、旭にとどまってくれている、その住環境についてはある程度いいところにある、ただ雇用に関してはどうするのかというのが、重点だと思います。

雇用に関するプロジェクトですが、資料のように3つだけなのではないでしょうか。

●事務局

今回はたたき台なので、3つにこだわる必要はありません。ただみなさんの意見を集約した形で、このような事業が重点的に、優先的にやれる事業じゃないかというものを出しているのです、3つに限ったものではありません。

○委員

企業誘致で雇用を生み出すのは、今の時代難しいところがあると思いますし、この3つのプロジェクトだけでどこまでできるのかなと疑問に思ったところです。

観光について、人口ビジョンの資料の中で、観光客の120万というのは、観光で勝負している自治体と比べて、多いのか少ないのかよくわからないのです。また観光の多い少ないというところが、経済に寄与するのはわかるのですが、具体的にどのようなところで寄与するのでしょうか。

●事務局（総合戦略事業受注者）

観光客についてですが、旭市の120万というのは海水浴とか、七夕市民まつりとかの夏の日帰りの観光客が大部分です。人数は多くても、海水浴、サーフィン、お祭りなどですので、なかなかお金を落としていく仕組みがなく、年間を通して定常的な収益につながりにくいということはあります。

今度できる道の駅などで、定常的な販売促進ができるようなところがあると、観光客の増加とお金がリンクしてくるのではないのでしょうか。

ちなみに人数で言うと、道の駅が1つできると100万人ぐらいの利用客があるというデータがでています。

○委員

先ほどお祭りでは、あまりお金になりにくいという話がありましたが、私は七夕市民まつりで実行委員をやっていますが、ただ寄付でお金がかかる、手間がかかる、大変なだけ、ではなく、地元にお金を落とす工夫ということで、去年から七夕市民まつりで抽選を行うサマーセールというのをはじめました。1市3町が合併した514店舗の商業振興連と、去年はにぎわい補助金を使って、今年は七夕市民まつりの寄付いただいた中から独自にやっているのですけれども、514店舗でサマーセールをやって、そこで、抽選券を配って、七夕市民まつりに来てもらうというものです。また旭に来てもらってお金を落としてもらえるような工夫ということで、ただお祭りだけじゃなくて地元が活性化する、にぎわうような意味を込めて、そういったものを企画しています。

ただ、これが軌道に乗るのかは、今年がカギなのかと思いながら、賛同してくださるところがなかったりもして、難しいところです。そういったところで、地元が活性化するために役立って欲しい、ただお祭りで通過するだけじゃないものにしていきたいなと思っています。

○委員

自分が見ると、旭市にはサーファーの人とかすごく来ています。自分も観光で商売していますが、うちは来たらお金を落としてもらっていますが、来れば、近場の飲食店、ガソリンにもお金を落としてくれていると思います。

市長退席=====

○委員

旭市の総合的なPRが足りないと思いました。サーフィンができる海岸がある、おいしいトマト、きゅうりがある、きれいなランがある。もっとPRというものをHPやメディアを使ってしたほうがいい

と思います。

宣伝力として、チラシや HP が非常に重要で、うちの娘も歯医者さんを探すのに、HP をみてここがいいと言ったりしている。今の人たちはパソコンで見ただけじゃなく、スマホでも見られるようにした方がいいと思います。ただポスターを市内に貼るだけではなく、もっと別なかたちで予算を使ってほしいなと思いました。

●座長

市外の人という立場から見ますと、先日、雷神社の素晴らしいお神輿がありましたし、下に行くと岩井の龍福寺もありましたし、いろいろありますね。こんないいものがありながら旭市は自分のことをあまり知らないのかと思います。濤川さんだって世界的な人ですよ。旭市の誇れる素晴らしい人を紹介し展示するとか、総合的に整理すれば、旭だけで何日か泊って歩けるのではないのでしょうか。日本は総合的な見方を教育されていない。市民が知らなくて、外部の人が知るわけがないので、その視点を作りたいと思います。そういうことが総合戦略につながっていくと感じています。

○委員

自分もサーフィンをしていて、旭市はとてもサーフィンが有名なまちで、他県からたくさん人が来ます。ただ海沿いに飲食店が少なくて、もっとあったらサーファーがお金を落としてくれると思うので、海沿いをもっときれいにしたら人がもっと集まるのではないのでしょうか。

また、米や野菜のブランド化を旭市でやっていけば、農業も盛り上がっていくのかなと思います。

●座長

サーファーにトマトを配ったりしたら、おいしいと評判になるかもしれないですね。総合力、おもてなし精神が必要になる。

今後、旭市に道の駅ができ、そこで何かおいしいものがあつたらいいと思いますね。そういう簡単なことができなければ大きなことができないのではないのでしょうか。

○委員

総合戦略の基本目標等はすべて大事な分野だと思います。雇用の創出も大事ですけど、今までどおりの企業誘致も同じだと思います。この後に話される予定の「小さな拠点形成事業」にも期待しています。このような仕組みを1つ作ることで、いろいろなもののネットワークがうまれたり、考えられたりするのではないかと考えています。

○委員

保育所の友人で、飯岡にサーフィンに来ていて定住した方がいます。その方などは、近くに祖父母が住んでいなく、仕事をしたいが保育所の関係で夕方4時までとか限られてしまう。人口ビジョン案で幼稚園児が減って保育園入園児が増えていたり、時間外保育利用者が増えていたりとありましたが、私の周りでも、あと30分でも預かってくれる保育所が旭市にあれば、正社員で働けるのにといい声も聞きます。

子育て会議でのアンケートでは地域差もあって、サービスが今までどおりになってしまいましたが、身近では、あと30分、1時間という声を聞きますので、もう少し検討していただきたい。

また、土日でも行政サービスを少しでもやるなど、力を入れてほしいと思いました。

それから、保育所は土日休みで、自分が病院に行きたい緊急の時等がありますが、例えば旭中央病院などで、自分が診療している間、子どもをみていただけるような施設があったらいいなと思います。

●座長

例えば「土日の旭」というテーマで、旭では土日に子どもの面倒がみてもらえる、市役所で何かやってもらえるとか、これだって日本で初めてだから、目玉になり人が来ますよね。人にやさしい、個々のものをひとつでもよくするだけで全体につながる。それが連携だと思います。

今回提出するものを具体化するとき、この会議で意見をいろいろ参考にしていければいいと思います。日本は継続ができない。住宅でも何十年か経ったら次に建てるなど何でも使い捨て文化がある。連続して、直して、つなげていく、そういうビジョンがいるのではないのでしょうか。

○委員

市役所には施策があって、遂行していると思いますが、外からはわからない。これをどうしたらいいのかが問題だと思います。今後の PR の仕方で、人を呼ぶために、定住してもらうために、観光で来てもらうために、自分なりに考えてみました。

例えば「旭においでよ」というタイトルがあって、その下に暮らし、子育て、生きがい、雇用支援などいくつかのジャンルに分けて、旭に来たらこんなことがあるよというのを、それぞれの分野が HP などで PR すると見えるようになるのではないかな。

「医」「職」「住」に「食」や「遊」なども組み合わせて、それをクリックしたら情報がでてくるなど、一般的で、ぱっと飛びついて、しっかり PR できて活用できるようなものが出来上がっていくといいと感じています。

●座長

事務局でまとめて、総合戦略を国に提出するまでに、あと何回会議をするのでしょうか

●事務局

市の目標といたしまして、重点プロジェクトまでまとめたものを 10 月末に国に提出したいと思っています。最終的にはすべての施策が入ってきますので、その中で優先順位をつけて、重点プロジェクトとして提出する予定が 10 月です。その前に、最初の概要的なものを、8 月 14 日までに国に提出しますので、それを考えますと、本日のご意見をいただいて、それをくんだ形で次回の 7 月に骨子案をご提示したいと思っています。日程的には過密になりますが、月 1 回程度でお願いしたいと思っています。

○委員

友人が旭市に来たときに、玄関口である駅前に、まずびっくりしてしまう。

特急電車の車内販売もなくなり、駅に着けば店があるかと思ったら何もなくて、キオスクもやっていない状況です。駅からタクシーに乗ったら国道沿いじゃなく裏道を通ってしまっていて、すごいところにきてしまったと言っていました。

都会の人が来たときに、駅前に「キャラクター」や大きな観光看板や案内があつたりしないと、今の状況では、駅に降りた瞬間にときめかないです。「旭においでよ」といっても迎えるところがないです。

お土産もどこにも売ってなくて、何もなく、帰っていかなくてはならない状況です。外から来る人のイメージをもっと大事にした方がいいと思います。

●座長

確かに旭駅を降りても何もなく、メイン通りに木も1本もないです。食事をするところも、お土産を買うところもなく、これではあまりにも不親切ですね。本来は駅前に旭市の特産の野菜や魚などいろいろなものを並べてもらってもいいと思いますね。

○委員

ボランティアで、特急が停まる時間帯だけでも立っててもらって、パンフレットを配って、何か聞かれたら答えてもらったりすることが大切だと思います。

●事務局

今回、人口ビジョンのたたき台を示させていただきましたけれども、方向性としてこちらの形で進めて構わないのか確認したいと思っています。細かい部分は出てくるかと思いますが、方向性だけは確認させていただきたいので、お願いします。

●林座長

先ほど、どなたか「何1つを特出させる」というのもありました。こういう方針でいくのでしょうか、どなたかがおっしゃっていたように、1にこれ、2にこれというように、優先順位がいるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○委員

商売人としての意見なのですが、1つの仕掛けでは人は来ないのです。いろいろな仕掛けをすることで、お客様が来てくださいます。飲食、サービス品、魅力ある商品、それから実演や講習会などがあります。いろいろな仕掛けを全部やることでお客様は来てくれると感じています。このため、特出したものの1つ、というのは難しいと感じています。

全体的には、総合的な産業振興が欠けているのかなと思いました。飯島委員がおっしゃったような起業とか、商売を盛り上げる、そういうアドバイスの窓口・支援、インターネットで紹介する窓口が商業振興、観光PRのなかに含めてあったほうがいいのではないかと思います。

読売新聞の中で気になったものがありました。銚子市から人口が減って鹿嶋方面に移る理由という記事で、工業団地を抱えている神栖市、そこで働く人が集まる。その財源を使って医療費負担が少なかったり、子どもの給食費が半分だったり、いろいろな仕掛けが複合して、神栖市は人口が増えているようです。このようにいろいろな仕掛けをすることが旭市の中で大事じゃないかと思います。

○委員

旭は駅前に何もないという話、確かにその通りだと思いますが、それでも魅力的なものがあるので、PRできていない、表現できていないということだと思います。

そこを産業の連携が大事だと思います。例えば農業で野菜を作ることは専門でもPRが苦手の人はいないので、別に旭の中でPRしてくれるところがあれば、強いものができると思います。それぞれの弱点

を補って、旭全体がまとまれば、自然に有名になっていく。その中からブランドもうまれてくると思います。みなさんとぜひ連携していきたいと思いますし、私も協力していきたいと思います。

●座長

もうひとつ、小さな拠点形成の説明があるので、お願いします。

●事務局

小さな拠点形成事業の進捗状況について、同事業の受注者より、ご説明をいたします。

○小さな拠点形成事業推進支援業務委託受注者

資料 4-1、4-2 にそって説明

●座長

ありがとうございました。説明にありました旭市版 CCRC（米国発祥の暮らし方で、継続的なケア付きリタイアメントコミュニティの略）これに集約されている気がしますね。

それでは本日、事務局の提示した総合戦略の概要について、この方向で、今日の各委員の意見をいれていただく方向でまとめるということでしょうか。

○委員

個人的な話で申し訳ないのですが、小さな拠点の件で、CCRC という言葉が個人的に嫌いで、何回聞いても覚えられないし、意味が伝わってこないです。本家のアメリカのものは、金持ちのリタイアメントを集めているイメージがあって、旭市として目指すのはそこじゃないなという気がします。

みなさんがわかりやすく、旭のやりたいことを示すような、代替えの言葉を用いて、骨子案にあげてほしいなと考えます。

●座長

それでは、CCRC というところを心の通う形でシンプルにさせていただいて、反映していただければいいですね。

以上、これで終わりにいたします。

●事務局

・次回懇談会は、7月24日（金）14：00～に開催予定です。本日はありがとうございました。

以上